

どうなる故郷の名前 —相模原市の例—

はじめに

筆者の故郷の村の名前は合併に継ぐ合併でその名前は消えた。わずかに残る名前は市役所の連絡所・幼稚園・小学校・郵便局・大学の演習林場の名のみとなった。村の名前は合併によって継続することもあれば変わったり消えたりもする。村の名前とは何か？

現在神奈川県には19市13町1村の自治体がある。これらの市町村も明治以前から離合集散を繰り返して今に至っている。直近の半世紀の事例は相模原市が津久井郡の4か町を吸収合併した事例のみである。その合併の環境や経過については、Lib 活2Bの丸島隆雄が「神奈川県における平成の大合併」^①で報告している。合併によって新しい名の市町村もできるが、消えた町村はそれ以上に多く、それらの名前についてまでは触れられていない。この国では合併によって大きくなった市町村の後ろで多くの市町村の名が消えた。相模原市の合併の歴史を遡り、消えた村や町の名についてその命名や経過とあり方を考える。

1、相模原市での直近の合併経過

1582(天正10)年の太閤検地による村切りが行われ集落の区域が明確になり現在の姿へ進むこととなる。1889(明治22)年4月1日に「市制・町村制」が施行されて行政面での整備も始まり現在につながって来た。ここではこの市制・町村制に始まり現在の相模原市に至った町村の、合併の経過をたどる。国を挙げて実施し神奈川県下では最後となった平成の大合併を表1にまとめた。

表1 相模原市の平成の大合併

合併前の町		合併年月日	合併先	現在
津久井郡	津久井町	2006(平成18)年3月20日	相模原市	緑区
	相模湖町			
	城山町	2007(平成19)年3月11日		
	藤野町			

『神奈川県市区町村変遷総覧』より 筆者作成

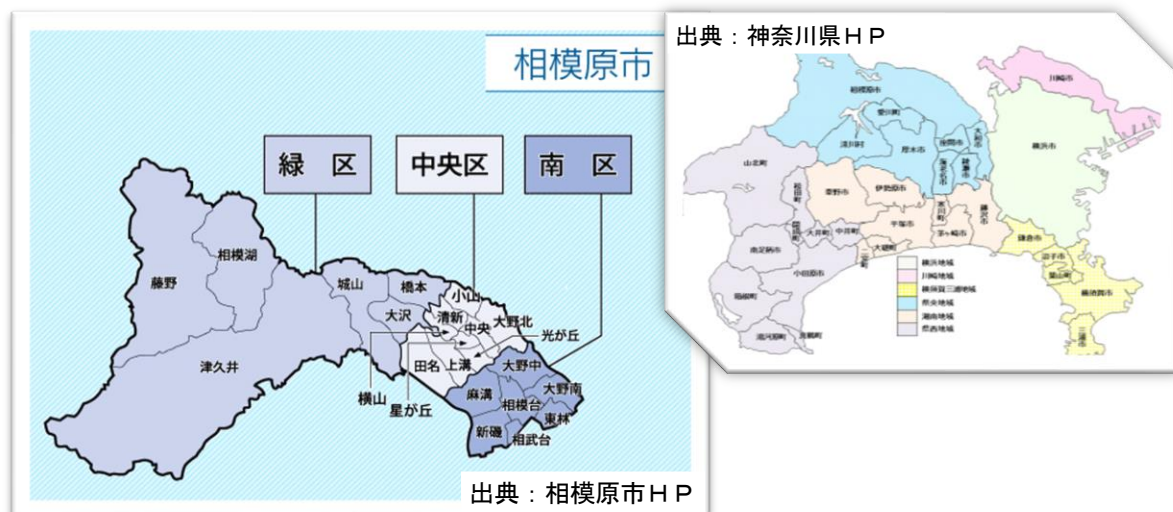


図1 相模原市と津久井4カ町の位置図

2、市町村の名前の付け方と残し方

2-1 1889(明治22)年、市制・町村制が内務大臣訓令第352号(町村合併標準其他ニ関スル訓令第6条)で公布され町村合併時における名付けの標準が出された。

「合併ノ町村ニハ新ニ其名称ヲ選定スベシ。旧町村ノ名称ハ大字トシテ之ヲ存スルコトヲ得、尤大町村ニ小町村ヲ時スルトキハ其大町村ノ名称トナシ或ハ互ニ優劣ナキ数小町村ヲ合併スルトキハ各町村ノ旧名称ヲ参互折衷スル等適宜斟酌シ勉メテ民情ニ背カサルコトヲ要ス、但町村ノ大小ニ拘ハラズ歴史上著名ノ名称ハ可成保存ノ注意ヲ為スヘシ」

このように市町村の名前の決め方は編入合併の場合は編入する市町村が存続し名称も存続するが、新たな名称とすることもできる。名称変更については地方自治法第3条に定められている。

第3条 地方公共団体の名称は、従来名称による。

3 都道府県以外の地方公共団体の名称を変更しようとするときは、この法律に特別の定めのあるものを除くほか、条例で定める。

2-2 これらによる相模原市域の合併による命名について、1889(明治22)年の国による標準で大まかに4つに分類してみると次のように分けられる。合併の変遷は表2にまとめた。

① 大きな町村と小さな町村の合併時に大きな町村の名を採用した例。⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾

座間村＝座間村＋座間入谷村＋新田宿村＋栗原村＋四ツ谷村＋新戸村

相原村＝相原村＋清兵衛新田村＋小山村＋橋本村

大沢村＝大沢村＋上九沢村＋下九沢村

中野町＝中野村＋又野村＋太井村＋三ヶ木村

吉野町＝吉野町＋牧野村＋小淵村＋沢井村

② 優劣がつかないため旧村名を折衷して合成した例。⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾

麻溝村＝当麻村＋下溝村

新磯村＝新戸村＋磯部村

三沢村＝三井村＋中沢村

③ 山岳・河川・湖沼等の著名な名称や人為的な名称等により付けられた町村の名前の例。

相模原町：1941(昭和16)年に町制施行の際、地域では相模町を望んだが相模国＝国名はままならぬとされたので「相模原町」を採ったという逸話がある。⁽⁵⁾⁽²⁹⁾⁽³¹⁾

串川村：命名には諸説あるが自然の流れから起きた「屈川」「朽地川」説が主力。⁽⁶⁾

津久井町：以前建っていた津久井城を築いた津久井為行の名から取られたと伝わる⁽⁷⁾

：津久井の呼名は三浦義明の弟義之が津久井村に住み、津久井氏を名乗り、鎌倉時代の初期その支族津久井太郎次郎義胤が北相模の宝ヶ峰に築城し、所領の地を津久井領とよんだことに始まるといわれているが事績など不明。⁽⁸⁾

：古来津久井郡の政治・経済の中心をなしてきたので郡名を持って命名。⁽⁹⁾

内郷町：相模川と道志川の内にある郷という地勢上からと言われる。⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾

相模湖町：1947(昭和22)年に完成した相模湖に面している。町は1955(昭和30)年に成立。⁽⁹⁾⁽²⁹⁾

湘南村：相模川を文人たちが湘江と呼び、その南にある村であるからと当時の馬場健二連合戸長が命名。⁽¹²⁾⁽¹³⁾⁽¹⁴⁾⁽¹⁹⁾⁽³⁰⁾⁽³¹⁾

城山町：津久井城のあった城山に因む名で、一般公募で最多の名前。⁽¹⁴⁾

藤野町：1955(昭和30)年5カ町村の合併が成立。町の交通・文化の中心が中央本線藤野駅付近であることから命名とある。⁽⁹⁾⁽¹⁵⁾⁽¹⁶⁾

④ 前3つの分類に分けられない村。

大野村：1889(明治22)年3月30日に鶴野森村・上鶴間村・矢部新田村・上矢部村・淵野辺村の5カ村の合併でできた村。「大野」の名は旧村のいずれでもなく現在は大字で大沼、住居表示で相模大野や大野台がある。しかし「大野」の名の由来を見出すには至らなかった。⁽¹⁷⁾⁽¹⁸⁾⁽¹⁹⁾

2-3 宿駅と新田

明治以前からの村に相当する名前に宿駅と新田がある。

座間宿村、新田宿村(現座間市)、矢部新田村、清兵衛新田(現相模原市)、与瀬駅(旧相模湖町)、吉野駅(旧藤野町)など。^(表2)

- ① 宿駅は、当時の5街道の1つである甲州道中(街道)の宿場でも街道に一定の間隔(原則として30里=20km)で馬を置いた駅を置き宿と呼んだ。その後参勤交代の際の宿泊施設にもなり、明治5年限りで伝馬所と助郷制度は廃止となったが、旧相模湖町の与瀬駅と旧藤野町の吉野駅は1913(大正2)年に町となるまで宿として残った。⁽⁹⁾⁽²⁹⁾⁽³⁰⁾⁽³¹⁾
- ② 近世の相模原は新田開発の歴史でもあった。相模野では新たな耕地の開発が行なわれ近世では新田、明治期では新開と呼ばれる耕地を造成した。近世最後の大規模な新田開発の清兵衛新田は村となる。現在は大字で、住居表示では清新として名を残す。⁽¹⁹⁾⁽²⁰⁾⁽²¹⁾⁽³⁰⁾⁽³²⁾

2-4 町と村の区別

市と町村の区別については1876(明治5)年5月18日付内務省議定「地所名称区別細目」には次のように定めてある

- 一 村ト称スルモノハ郡中ノ区分ニシテ字ヲ轄シ農民ノ部落ヲ為スモノナリ
- 一 町ト称スルモノハ郡中ノ区分ニシテ商民ノ市街ヲ為スモノデ字ヲ轄スルコトヲ村ニ同ジ
- 一 字ト称スルモノハ村町中ノ区分ニシテ数十百筆ノ地ヲ轄スルモノナリ

3、合併によって消えた町村の名前はどこへ

これまでの経過から合併により行政上の多くの町村の名は消えた。1889(明治22)年の市制・町村制にもあるように、相模原市でも大字として残るか何らかの名前として残されている。

3-1 合併先(現相模原市)の町・字名として残す。

1889(明治22)年施行の「市制・町村制」により現相模原市域では32の町村が新たに出発した。4月1日の施行に備え3月31日に合併が行われて46か町村は32か町村となった。1夜にして14の村の名が消えた(表2)。その後も合併による合併が続き2007(平成19)年に現相模原市の1つとなる。この間に37か町村の名前が行政上から消えた(表2)。

(注：中沢村・三井村・三沢村は夫々1回のみ数えた。37=32+串川+津久井+相模湖+城山+藤野)

しかしその殆どは合併先である現相模原市の大字として一部の変形を除き引き継いで残されている。

3-2 消えた町村の名を公的施設等の名称として残す

串川村：元の村の名については諸説あるが、村内を流れる1級河川「串川」の名は残る。
湘南村：村の名は消えたが唯一「湘南小学校」の名として残っている。⁽²²⁾

4、特異な例

4-1 合併に無理な点はなかったか

座間市は相模原市の南に隣接し人口 13 万人余の工業都市で最近ではベッドタウン化してきている。1937(昭和 12)年陸軍士官学校等が座間村に移転してから軍都化が始まり 1941(昭和 16)年には軍の強い意向で近隣 2 町 6 村が合併して相模原町となった。

1945(昭和 20)年の終戦以来、旧日本軍施設を米軍が接収して座間キャンプとした。1948(昭和 23)年 9 月 1 日相模原町南端の旧座間地区は、立地・地域性や行政面からも不便があったため旧町の区域が分立して再び座間町となった。^{(23) (29)}

県下では同様の例として逗子町が横須賀市に合併させられたが、座間市と同様に戦後分立し現在に至っている。他では山口県徳山市と小郡町に例がある。⁽²⁹⁾

4-2 神奈川県での合併構想

神奈川県では 2007(平成 19)年に「神奈川県における自主的な市町村の合併の推進に関する構想」を策定した。そのまとめとして「今後の期待される市町村」は合併により今後の期待される市町村像として合併により中核都市(人口 30 万)以上の都市圏域を設定するとした。⁽²⁴⁾

横浜・川崎・相模原を除いて合併に向けた取り組みが期待される 5 つの都市圏域として①県西②三浦半島③県央④湘南西⑤湘南東圏域を設定したが進展はない。⁽²⁵⁾

4-3 県下でたった 1 つ残った村

清川村は神奈川県のおぼ中央に在り相模原市旧津久井町の南に接する県内で唯一の村となった。かつて村は隣接する愛川町と合併の構想があったが成立するには至らず村は残った。^{(26) (27)}

4-4 湘南村は山奥にあった

2024(令和 6)年 8 月 22 日のテレビ朝日の報道番組『J チャンネル「湘南」ってどこ』で、湘南の名称を巡っての区域論争が取り上げられたが丸島報告⁽¹⁾とほぼ同様のものであった。

1889(明治 22)年 4 月 1 日施行の市町村令により津久井郡小倉村と葉山島村が合併して湘南村が成立した。城山町史には「村の名称は相模川を文人たちが「湘江」と呼んでいたところから湘河の南にある 2 カ村が 1 つになることから湘南という名が生まれた、と伝えられている。」とある。村は 1955(昭和 30)年 4 月 1 日川尻村と三沢村字中沢と合併して城山町となり、湘南村の名は消えた。今は相模原市立湘南小学校に村の名が残る。^{(22) (30)}

おわりに

これまでの相模原市の合併によって旧町村の自治体としての名は消えたが名前は行政区域としての町や字など何らかの形で残されていることを確認できた。

文字と言葉は人間だけが可能なコミュニケーションにとって必要な道具である。この国では神羅万象ありとあらゆるものに名前が付けられている。そしてそれはそれぞれの人々の意思疎通には不可欠なものとなっている。土地や村の名は、今は意味不明と思われているものでも、大小広狭を問わずその地域にとって由緒ある要因により名付けられただけでなく、「名」その一言・一文字を聞いただけでその地の概念を思い浮かばせることさえ可能である。

明治・昭和・平成と 3 回の大合併で市町村の数は、1888(明治 21)年の 71, 314 から 2010(平成 22)年には 1, 730 へと大幅に減り多くの名前も消えた。今はない市町村の名前には大きなものが含まれていても人の虚ろな記憶には残らない。市町村の名前は、歴史的な意味やその重みを受け止めて生かすのが今生きる我々の役目ではなからうか。谷川健一は「地名は文化遺産」という。

⁽²⁸⁾

表2 相模原市の行政区画の変遷																	
1889(明治22年)	1909	1913	1925	1926	1937	1941	1948	1954	1955.1月・4月・7月	1971	2006	2007	2010				
前	町村制					町発足		旧市域			2町合併	2町合併	区制				
座間村	座間村				座間町	相模原町	座間町分立			座間市							
座間入谷村																	
新田宿村																	
栗原村																	
四ツ谷村																	
新戸村飛地																	
鷓野森村	大野村				相模原町	昭和二十九年十一月二十日	相模原市			相模原市			緑区				
上鶴間村																中央区	
矢部新田村																	緑区
上矢部村																	中央区
淵野辺村																	
相原村	相原村																
橋本村																	
小山村																	
清兵衛新田																	
大島村	大沢村																
上九沢村													緑区				
下九沢村																	
田名村	田名村																
上溝村	溝村			上溝町									中央区				
当麻村	麻溝村																
下溝村																	
磯部村	新磯村																
新戸村																	
中沢村	三沢村																
三井村																	
中野村	中野村																
又野村	又野村																
太井村	太井村																
上長竹村	三ヶ木村																
下長竹村	下長竹村																
長竹村	長竹村	串川村															
根小屋村	根小屋村																
青山村	青山村																
青野原村	青野原村																
鳥屋村	鳥屋村																
青根村	青根村																
若柳村	内郷村																
寸沢嵐村																	
千木良村	千木良村																
小原町	小原町																
与瀬駅	与瀬駅			与瀬町													
小倉村	湘南村																
葉山島村																	
川尻村	川尻村																
中沢村	三沢村																
三井村																	
牧野村	牧野村																
吉野駅	吉野駅			吉野町													
小淵村	小淵村																
澤井村	沢井村																
佐野川村	佐野川村																
名倉村	名倉村																
日連村	日連村																
補記1、「神奈川県区市町村変遷総覧」「全国市町村名変遷総覧」「神奈川県町村合併誌」により筆者作成																	
補記2、町村の飛び地については本村のごく一部であり合併に影響を与えなため省略した。																	
補記3、町村名の文字については、常用漢字に改めた。																	

参考文献

- (1)、丸島隆雄 『神奈川県における平成の大合併』 Lib活2 報告 2023(r5)
- (2)、齊藤達也 『神奈川県区市町村変遷総覧 県立公文書館資料をたどる』 神奈川新聞社 2015(h27)
- (3)、『神奈川県町村合併誌 上・下巻』 神奈川県 1958・1959(s33・34)
- (4)、市町村自治研究会監修 『全訂2版 全国市町村変遷総覧』 日本加除出版 2023(r5)
- (5)、相模原市教育委員会 『さがみはらの地名』 1990(h2)
- (6)、津久井町文化財保護委員会編 『つくい町の地名』 津久井町教育委員会 1994(h6)
- (7)、日本地名の会 『PHP文庫 神奈川県民も知らない地名の謎』 (株)PHP研究所 2013(h25)
- (8)、下中邦彦編 『日本歴史地名大系第14巻 神奈川県地名』 平凡社 1984(s59)
- (9)、「角川日本地名大辞典」編纂委員会 『角川日本地名大辞典 14 神奈川県』 (株)角川書店 1984
- (10)、鈴木重光 『相州内内郷村話』 神奈川県相模湖町教育委員会 1971(s46)
- (11)、相模湖町文化財保護委員会編 『郷土さがみこ 地名編』 相模湖教育委員会 1996(h8)
- (12)、神奈川県津久井地区行政センター 『『つくい』の地名』 1995(h7)
- (13)、城山町 『城山町史 7 通史編 近現代』 城山町 1997(h9)
- (14)、城山町文化財保護委員 城山町教育委員会生涯学習課社会教育班
『城山町の地名』 城山町教育委員会 2001(h13)
- (15)、藤野町 『藤野町史 資料編 下』 1994(h6)
- (16)、藤野町 『藤野町史 通史編』 1995(h7)
- (17)、角川日本地名大辞典 編纂委員会 『角川日本地名大辞典 14 神奈川県』 (株)角川書店 1984
- (18)、相模原市総務局総務課市史編さん室 『相模原市史 民俗編』 相模原市 2011(h23)
- (19)、今尾恵介 『地図から消えた地名』 (株)東京堂出版 2008(h20)
- (20)、座間美登都治 神崎彰利 『わが町の歴史。相模原』 文一総合出版 1984(s59)
- (21)、相模原市教育委員会 『地名調査報告書』 相模原市 1984(s59)
- (22)、学校案内 『相模原市立湘南小学校』 <https://shonan-e.sagamihara.andteacher.jp/> (参照 2024.12.16)
- (23)、相模原市教育委員会教育局生涯学習部博物館 『相模原市史 現代通史編』 相模原市 2013
- (24)、神奈川県企画部市町村課編
『神奈川県における自主的な市町村の推進に関する構想』 神奈川県 2007(h19)
- (25)、神奈川県総務部市町村課行政班 『神奈川県における平成の合併記録』 2010(h22)
- (26)、清川村教育委員会 『清川村史 資料編』 清川村 2016(h28)
- (27)、清川村教育委員会 『清川村史 通史編』 清川村 2018(h30)
- (28)、谷川健一 『現代「地名」考』 日本放送出版協会 1979(s54)
- (29)、今尾恵介 『市町村名のつくり方』 日本加除出版(株) 2020(r2)
- (30)、今尾恵介 『番地の謎』 光文社 2017(h29)
- (31)、今尾恵介 『地名崩壊』 角川新書 2019(r1)
- (32)、『一個人 [完全保存版] 47 都道府 県地名の謎と歴史』 2021年5月号増刊 kkベストセラーズ
- (33)、鏡味完二、鏡味昭克 『地名の語源』 角川書店 1877(s52)
- (34)、日本博学倶楽部 『日本の地名の意外な由来』 PHP研究所 2007(h19)